

第 67 回接続料の算定等に関する研究会の議論を踏まえた  
KDDI 株式会社への追加質問及び回答  
(着信事業者が設定する音声接続料の在り方関係)

※赤字は構成員限り

問 1 KDDI 株式会社説明資料の P. 7にあるように接続料算定・精算業務は一部残るとして、単純な相互発着信呼が全てビル&キープ方式になるとしたら、貴社にとってのコスト削減効果はどれくらいか、可能な限り定量的にお答えいただきたい。

(相田構成員)

(KDDI 回答)

- ビル&キープ方式導入後により、双務的な関係にある接続事業者間の精算が不要となることで、精算実務や精算システムのメンテナンスに係る業務負荷軽減されるほか、それらの事業者間の接続料の協議・調整に係る各種業務等の負荷軽減にも寄与するものと考えます。
- 下表では、双務的な関係にあるもの（直収）と片務的な関係にあるもの（着信課金等、国際電話）別にのべ事業者数を示しております。ビル&キープ方式導入による取引事業者数の減少により、移動体事業では約●%、固定事業では約●%の業務負荷軽減を見込んでおります。

構成員限り

- また、音声市場の継続的な縮小傾向を踏まえれば、通信業界全体で事業者間協議・精算実務の簡素化・効率化を検討する時期が到来していると考えており、二種指定事業者の算定方法簡素化のほか、精算が残る片務的な事業者間接続においても、例えば非指定事業者の接続料にベンチマーク方式を採用する等、接続料算定の在り方についても検討する必要があると考えます。

問2 コスト削減以外に貴社がビル&キープ方式のメリットと思っていることはあるか。それは主に貴社のみにとってメリットになることか、接続相手やエンドユーザにとってもメリットとなることか。

(相田構成員)

(KDDI 回答)

- 社会的な問題となっている可能性があるトラヒック・ポンピング対策として、全事業者へのビル&キープ方式導入は、以下の観点から極めて有効な解決策と考えます。
  - 事業者間協議を通じた合意形成・MNO による対策強化のみではトラヒック・ポンピングを解消することは困難であること
  - 通信事業者は「通信の秘密」を遵守する必要があり、接続事業者のトラヒック・ポンピングへの関与を証明することは困難であること
- なお、ユーザ料金は、接続料支出だけではなく、ネットワークに係るコストや営業コスト、他事業者との競争環境などを総合的に勘案したうえで設定されるものと考えています。ビル&キープ方式導入による収支影響や市場動向を踏まえ、ユーザ料金について検討してまいりたいと思います。

第 67 回接続料の算定等に関する研究会の議論を踏まえた  
KDDI 株式会社への追加質問及び回答  
(トラヒック・ポンピング関係)

問 1 過去一年の間で、一ヶ月の着信トラヒックが発信トラヒックの 3 倍以上、6 倍以上になっている事業者は何社程度存在しているのか。それぞれの事業者について発着信のトラヒック及び相手事業者の設定している接続料を示していただきたい。

(佐藤構成員)

問 2 過去一年のある月で、発着のトラヒック比が 10 : 1 以上になっている事業者のうち、月々 50 万分以上の着信がある事業者はどの程度存在しているか。それぞれの事業者について発着信のトラヒック及び相手事業者の設定している接続料を示していただきたい。

(佐藤構成員)

(KDDI 回答)

- 当社移動体事業 (au) と固定事業者との発着トラヒック比については以下のとおり。2021 年度 12 カ月分の平均値で分類。

構成員限り

発着トラヒック比が 3 倍以上ある事業者の接続料、および 10 倍以上ある事業者の 2022 年 3 月トラヒック、発着比率は以下のとおり。

構成員限り

問3 過去一年のある月で、前年同月に比べ、着信あるいは発信が2倍以上に急増した接続先事業者は何社で、各事業者の発着信のトラヒックと接続料を示していただきたい。

(佐藤構成員)

(KDDI 回答)

- 2022年度と2021年度の前年同月比において、au 発信トラヒックの増加率が1回以上2倍を超えた事業者の各月の実績は以下のとおりです。

構成員限り

問4 着信接続料が御社の設定する接続料の1.5倍以上となっている事業者は何社程度存在しているのか。それぞれの事業者について発着信のトラヒックと接続料を示していただきたい。

(佐藤構成員)

(KDDI 回答)

- (構成員限り)

問5 トラヒック・ポンピングについて各社で行っている対応策、今後実施することを考えている対応策をお教えいただきたい。

(佐藤構成員)

(KDDI 回答)

- (構成員限り)